

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (北海道)	◎	一般小売店〔酒〕（経営者）	・現在の売上は新型コロナウイルス新規感染者数の増減と反比例している。このまま沈静化が進んでいけば売上は確実に増加することになる。様々なイベントや会合も再開されており、今後に期待を持てる状況になってきた。
	◎	高級レストラン（スタッフ）	・観光シーズンを控えて、観光関連施設の予約が上向いている。外国人観光客の受入れも再開され、道民割に加えて全国旅行支援も予定されているため、今後の景気は良くなる。
	◎	旅行代理店（従業員）	・北海道や各市町村において、道民割等が実施されていることから、これまで抑制されてきた観光需要、旅行需要などが夏場の繁忙期を迎えて北海道に集中することを期待している。また、この2年間就航のなかった国際線が7月から復便する計画であることから、インバウンドがようやく回復の途に就くことになり、回復基調を後押しすることも期待できる。
	○	商店街（代表者）	・新型コロナウイルス感染症が収束することになれば、景気は少しずつ回復することになる。
	○	商店街（代表者）	・3か月後は当地の夏祭りの翌月となるが、新型コロナウイルスの感染状況が低水準を維持していれば、客足は伸びることになる。また、これから道民割等の効果が現れ、当地を訪れる道内外からの観光客も増加することも期待できる。これらのことから、宿泊、交通、コンビニなどでの売上アップが見込まれる。
	○	商店街（代表者）	・6月に入り、観光客が順調に回復している。ただ、いまだに外国人観光客はゼロであり、新型コロナウイルス発生前の6割にも満たない水準にとどまっていることから、観光客回復に向けた支援が必要である。北海道の観光閑散期である冬に入る前に実施できるよう対応を急いでほしい。
	○	一般小売店〔土産〕（経営者）	・新型コロナウイルス感染症による外出自粛などがなくなったことから、観光客が増えている。ただ、外国人観光客が戻ってこなければ、経営が成り立つような状況にはならない。外国人観光客がコロナ禍以前のように来日できるように、政府にも対応をお願いしたい。
	○	百貨店（販売促進担当）	・今後も新型コロナウイルス新規感染者数や重症者数などの減少に伴って、来客数が回復し、売上も拡大していくことが見込まれる。
	○	スーパー（店長）	・新型コロナウイルス感染症による規制が徐々に緩和されつつあり、様々なイベントなどが開催されるようになってきている。客の動きも活発になっており、今後の景気はやや良くなる。
	○	スーパー（店長）	・過去2年にわたって中止されていた各種のイベントが再開される予定となっており、それに伴う需要の復活が期待できる。
	○	スーパー（役員）	・食品の値上げに伴って消費額が増えており、景気が良くなる方向に進んでいる。
	○	コンビニ（エリア担当）	・夏場に向けて、世の中の流れは確実に上向いている。しっかりと準備して夏本番を迎えることで、来期にもつながることを期待している。
	○	衣料品専門店（店長）	・在宅勤務明け、転職と人の流れが出ていることで、ビジネスアイテムの需要が活性化している。
	○	家電量販店（経営者）	・エアコンを中心に夏物商材の売上増が期待できる。
	○	乗用車販売店（従業員）	・今後については、電子部品の供給不足など、海外のロックダウンの影響も大分緩和されると見込めるため、納期の遅れも多少は改善することになる。9月決算という当社の事情もあり、乗用車の売行きは今よりも良くなる。
	○	自動車備品販売店（店長）	・今まで抑えられてきた人流が回復傾向にあるため、今後、消費が活発になるとみられる。ただ、物価上昇によって回復傾向にある消費が再び落ち込む懸念もある。
○	その他専門店〔造花〕（店長）	・新型コロナウイルス感染症の影響が徐々に落ち着くことで、人出が増加し、それに伴って景気も回復することになる。	
○	高級レストラン（スタッフ）	・団体客など、観光客に動きが出ていることから、今後の景気はやや良くなる。	

○	観光型ホテル（スタッフ）	・全国旅行支援への期待が大きいことが予約の動きからうかがえる。客からの問合せも多いなど、関心の高さを感じられることから、今後の景気はやや良くなる。
○	旅行代理店（従業員）	・人の動きが出始めたことから、今後の景気はやや良くなる。
○	旅行代理店（従業員）	・夏休み時期となるため、景気が良くなることを期待している。
○	旅行代理店（従業員）	・規制の緩和などが進んでいる現状から、今後、旅行者が一層増加することが期待できる。
○	タクシー運転手	・イベント関係や夜型飲食店を利用した客の利用が目立つようになってきていることから、今後の景気もやや良くなる。
○	タクシー運転手	・夏祭りなどを控えて、人の動きが活発になるとみられることから、今後の景気はやや良くなる。
○	観光名所（従業員）	・国内観光客による利用が、徐々に新型コロナウイルス発生前の水準に近づいている。今後は外国人観光客の増加も見込まれるため、景気はやや良くなるを期待している。
○	観光名所（職員）	・新型コロナウイルス発生前の水準には程遠いものの、国内観光客が動き始めたことで、来場者数も徐々に回復している。今後は国内観光需要の一層の喚起とインバウンドの復活も期待できるため、景気はやや良くなる。
○	美容室（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況について、6月のような状況が継続すれば、今後の売上は順調に伸びることになる。
○	美容室（経営者）	・物価高は気掛かりだが、新型コロナウイルスの感染状況に落ち着きが見られるようになってきたことから、このままの状況が続けば、景気も多少は良くなる。
□	商店街（代表者）	・参議院選挙の真ただ中であり、選挙の結果次第で世の中の流れが変化することになる。
□	商店街（代表者）	・空梅雨の影響で野菜や果物に高温障害が起きることが心配される。
□	百貨店（売場主任）	・前年の7～8月は新型コロナウイルス感染症、猛暑、北京オリンピックの交通規制による来客数の減少がみられたため、今年は前年比プラスで推移するとみられるが、直近の大きなプラス要因はないため、景気は変わらない。ただ、今後、外国人観光客の来道が増えれば、プラス要因となり得る。
□	百貨店（営業販促担当）	・目的買いの来客数は引き続き増えるとみられるが、全般的な物価の値上がり傾向が全体の回復を遅らせることになる。
□	百貨店（マネージャー）	・気温の上昇とともに衣料品の動きが上向いているが、これから高額素材を中心に物価高の影響が出てくるとみられるため、今後も景気は変わらない。
□	コンビニ（エリア担当）	・観光客の動きが上向いているが、前年のような好天が続くかどうかははっきりしないため、今後も景気は変わらない。
□	コンビニ（エリア担当）	・素材の価格が上がっていることで、短期的にみると売上は増えているが、来客数が鈍化しているため、経営環境が良くなるとは限らない。
□	コンビニ（エリア担当）	・新型コロナウイルス感染症の影響は大幅小さくなっているが、前年は夏場の気温が高く、そのことが売上にも寄与していたため、今年は天候要因でのマイナスが懸念される。
□	家電量販店（店員）	・7月が猛暑になることで、夏物家電の売行きが上向くことを期待している。
□	乗用車販売店（経営者）	・観光関連の景気は回復しているが、他の業界は今の状態が続くとみられるため、大きな変化は見込めない。
□	乗用車販売店（従業員）	・新型車の導入が予定されているが、販売台数を大きく押し上げるまでには見込めない。また、注文があっても登録されるまで売上が立たないため、納車までに時間が掛かる状況を考慮すると、今後も景気は変わらない。
□	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・今後もこのまま景気が低迷し、価格の安さなどを求める客とサービスの質などを求める客の差が広がっていくことが見込まれる。相談対応している薬局にとっては厳しい状況となる。
□	高級レストラン（スタッフ）	・今後については、低予算で利用できる店を中心に飲食店の利用客が増えるとみられる。ただ、客単価が上がらないなか、仕入価格が上昇することで、利益を圧迫することが懸念される。客足が戻ってきた飲食店については、そろそろ第三者認証での認証基準を見直し、座席数を以前の状態に戻せるようにしてほしい。

	□	スナック（経営者）	・6月に入っても余り変わりがないため、7月以降も景気は変わらない。
	□	タクシー運転手	・人出が少しずつ戻っているため、タクシーの利用も増えるとみられるが、乗務員不足がなかなか解消されないことから、これから高齢ドライバーの退職が増えても補充できないことが懸念される。そのため、全体のタクシー稼働はますます少なくなる。
	□	タクシー運転手	・新型コロナウイルス感染症の収束がみえてこない限り、本格的な景気回復には至らない。当地の新規感染者数は大分減りつつあるが、油断できない状況がまだ続くとみられるため、今後も景気は変わらない。
	□	通信会社（企画担当）	・当面は旧端末での他社との価格合戦が継続することになる。他の要因が新たに生じないとみられることから、今後も景気は変わらない。
	□	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・今後については、全国旅行支援も予定されていることから、このまま好調な状況が持続する。
	▲	スーパー（店長）	・ロシアのウクライナ侵攻の影響に加えて、物価上昇や新型コロナウイルス感染症などのマイナス要因も懸念されるため、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	スーパー（企画担当）	・光熱費、消費財、食品について、これから値上げが本格化するとみられ、それに伴って買い控えなどの生活防衛的な消費行動が顕著になると見込まれる。今後の消費環境は一段と厳しくなる。
	▲	スーパー（企画担当）	・これから小麦高騰の影響による価格転嫁が本格化すること、農作物や畜産物の価格に肥料価格高騰の影響が反映されてくることから、先行きのみえない状況にある。
	▲	コンビニ（店長）	・光熱費の値上がりによって家計がひっ迫し、し好みや食料品の節約が進むことが懸念される。スーパーより価格設定の高いコンビニにとっては不利な状況となる。
	▲	乗用車販売店（従業員）	・販売量が相変わらず落ち込んで推移しているなか、様々な物が値上がりし始めており、会社の経費が膨らんでいる。利益がますます上がらなくなっていることから、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	美容室（経営者）	・このまま多くの物の値上がりが進むと、価格を上げなくてはいけなくなる。
	▲	住宅販売会社（経営者）	・新型コロナウイルス新規感染者数の減少傾向が鈍ってきている。また、円安やウッドショックの影響により、輸入品や原材料の価格が上昇しており、それに伴って住宅着工数も段々と落ち込んでいる。これらのことから、3か月先の景気は厳しい状況となる。
	▲	住宅販売会社（経営者）	・インフレで建築資材の高騰が続いており、分譲マンションの建築コストも高くなっている。客の所得が増加しない限り、分譲マンション市場においては供給価格の上昇に伴って、需要が徐々に減少することになる。
	×	スーパー（従業員）	・食料品の価格上昇が継続することで、需要の低迷が懸念される。人件費と光熱費などの経費増もあり、収益悪化が見込まれる。経費節減や投資抑制の傾向が続くことも懸念される。
	×	観光型ホテル（経営者）	・全国旅行支援の実施予定がはっきりしていないことに加えて、物価高などによる仕入価格の上昇、過剰な新型コロナウイルス感染症対策のまん延などの影響もあり、先が見通せない状況にある。
	×	タクシー運転手	・これまで新型コロナウイルス感染症による消費行動抑制は可処分所得に余り影響していなかったが、ウクライナ情勢、原油高、円安などの影響は消費者の可処分所得の減少につながっている。今後については、新型コロナウイルス感染症の影響を受けなかった産業にも消費抑制が波及することが懸念され、景気はますます下向くことになる。
企業 動向 関連 (北海道)	◎	*	*
	○	建設業（経営者）	・今後については、工事の受注が進み、土木、建築共に手持ち工事が増え、稼働率が上がることになる。一方、観光関係の需要が徐々に戻りつつあることから、街中の景気も上向くことになる。ただ、例年のことだが、秋口からは人手不足が顕在化するとみられるほか、エネルギー関係や資材の高騰、納期の遅れなども懸念され、原価、工程への影響がどの程度になるかを心配している。

	○	建設業（役員）	・当面は現場配置可能な技術員のフル稼働状態が続き、年度前半の好調な推移が見込まれる。ただ、燃料や建設資材の価格高騰と品不足が工事原価や工期に影響を及ぼす懸念が増しつつある。
	○	金融業（従業員）	・インバウンドの受入れ再開によって、道内景気が徐々に押し上げられることが見込まれる。個人消費はコロナ禍の影響が和らぐ一方、消費者物価の上昇が持ち直しペースを緩やかなものにとどめる懸念がある。米国や中国などの海外経済が下振れする影響も懸念されるものの、全体的には3か月後の道内経済はやや良くなる。
	○	司法書士	・新型コロナウイルス感染症の影響が徐々に収まりつつあり、規制や自粛が解除されることによって、景気の回復が見込める。ただ、ロシアのウクライナ侵攻などの要因による原材料不足、ガソリンや資材の価格高騰が今後も続くようであれば、景気が下向き懸念もある。
	○	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・民間設備投資が好調なことに加えて、公共事業の発注も遅ればせながら進むとみられる。政府の景気浮揚策も積極的に発せられていることから、今後については、景気回復に拍車が掛かることになる。
	□	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・案件は増えているが、人手不足の状態が変わらないため、受注に結び付かない状況となっており、今後も景気は変わらない。
	□	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・鉄骨関連企業では夏以降の仕事量が増えるようだが、全般的にまだ動きが鈍く、メーカーの値上げや欠品などの影響もみられるようになっていることから、今後も景気は変わらない。
	▲	食料品製造業（従業員）	・商材の値上げが進んだとしても、それ以上に、原材料や燃料、エネルギー、輸送費が上昇していくため、利益の出ない状況となっていくことが見込まれる。
	▲	金属製品製造業（従業員）	・1～4月までの新築住宅確認申請戸数が前年比で20%ダウンしている。今後も回復する気配がないため、9月以降の受注はかなりの落ち込みが見込まれる。
	▲	建設業（従業員）	・新型コロナウイルス感染症の影響による民間の発注控えに加えて、官庁からの発注件数も半減している。さらに、コスト高による発注控えが追い打ちをかけている。今後については、かなり厳しい状況となりそうだ。
	▲	輸送業（支店長）	・燃料費を始めとして全ての経費が値上がり傾向にある。すぐに価格転嫁できる訳ではないため、今後の景気は徐々に下向きことになる。
	▲	通信業（営業担当）	・通信・IT業界において、半導体不足による通信、サーバー機器などの納期遅れがみられ始めている。今後、業績への影響がますます大きくなるとみられることから、先々の景況感はやや悪くなる。
	▲	司法書士	・現状、円安の影響が大きくなっている。今後2～3か月でロシアのウクライナ侵攻が終結する見通しも立たないため、景気は低迷したまま悪化することになる。
	▲	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・物価高や納期の遅れが続くとみられるため、今後の景気はやや悪くなる。
	×	—	—
雇用 関連 (北海道)	◎	—	—
	○	求人情報誌製作会社（編集者）	・円安や物価高はあるものの、求人分野では業種を問わず人手不足が顕在化していることから、景気は足踏みしながらも少しずつ良くなる。
	○	求人情報誌製作会社（編集者）	・3年ぶりに開催される大規模イベントが多く、今後の消費活動が期待できることから、それに伴って景気もやや良くなる。
	○	職業安定所（職員）	・当地における月間有効求人数は1年2か月連続で前年を上回っており、全体としては回復の兆しがみられる。ただ、産業や業種によってその度合いが異なっており、今後の新型コロナウイルスの感染状況によっては、経済活動や消費行動の状況が先を見通せない状態になることも懸念される。
	○	学校〔大学〕（就職担当）	・これまで採用を手控えていた業界において、採用活動が再開されるなど、好感感がうかがえることから、今後の景気はやや良くなる。

□	人材派遣会社（社員）	・売手市場のなか、企業の採用意欲が落ち込むような状況はみられず、企業が人材確保の手を緩めていないことがうかがえる。労働市場では、求職者の辞退も多いが、求人企業は諦めずに採用活動を継続することになる。
□	求人情報誌製作会社（編集者）	・今後、新型コロナウイルス新規感染者数が増えたとしても、過度な警戒感や引締めにはつながらないとみられることから、今後、徐々に経済が通常モードとなる。ただし、物価高が回復にブレーキを掛ける可能性があり、求人を様子見する業界が出てくることが懸念される。
□	求人情報誌製作会社（編集者）	・経済活動活性化への期待が高まっている一方で、物価高によるマイナスの影響が出てくる可能性がある。今後の利益率の低下や個人消費の落ち込みが懸念される。
□	職業安定所（職員）	・コロナ禍による事業環境の変化が進むなか、原油や原材料の価格高騰など、事業環境の悪化を招く要因は多いものの、業況が堅調な事業所からの求人がみられることから、今のところ新規求人数は増加傾向にある。また、これまで転職を控えていた人が求職活動を開始していること、高齢を理由に離職した人が増加していることなどで、新規求職者数も増加している。
▲	職業安定所（職員）	・国際情勢が先行き不透明なこと、いまだに新型コロナウイルス感染症が収束しないことから、今後の景気はやや悪くなる。
×	*	*